

# 2期連続で主要3項目すべて改善

## コロナの悪影響から小売・サービス業改善

<調査機関> 北九州商工会議所

<調査期間> 令和5年9月4日~9月29日

〔参考〕調査開始日(9/4)の株価及び外国為替市況

日経平均株価終値 32,939円 18銭、東京外国為替市場対ドル円相場終値 146円 49銭

<回答数> 480社(製造業117社・非製造業363社)

<調査方法> 郵送・メール・ヒアリングによるアンケート調査方式



本件に関するお問い合わせは、

**北九州商工会議所 産業振興課 (TEL:541-0185)**

### < 概 況 >

#### ◆【主要3項目(業況判断・売上高・経常利益)】

2期連続で主要3項目すべて改善

売上高は平成30年7-9月期以来のプラス水準

次期は主要3項目すべて悪化を予測

#### ◆【業種別】

小売業、サービス業は主要3項目すべて改善。建設業はすべて悪化

次期は卸売業と建設業以外すべて悪化を予測

#### ◆【規模別】

大規模企業と小規模企業は主要3項目すべて改善

次期は大規模企業と中規模企業が主要3項目すべて悪化を予測

※DI(景気動向指数:Diffusion Index)とは…それぞれの調査項目に対してプラス傾向(増加・上昇・改善)の回答割合からマイナス傾向(減少・下降・悪化)の回答割合を差し引いたもの。このDIは基本的には変化の方向を表す。

(注)▲はマイナス。また、前回調査数値との差が1.0ポイント未満の場合は、「横ばい」での推移と判断する。

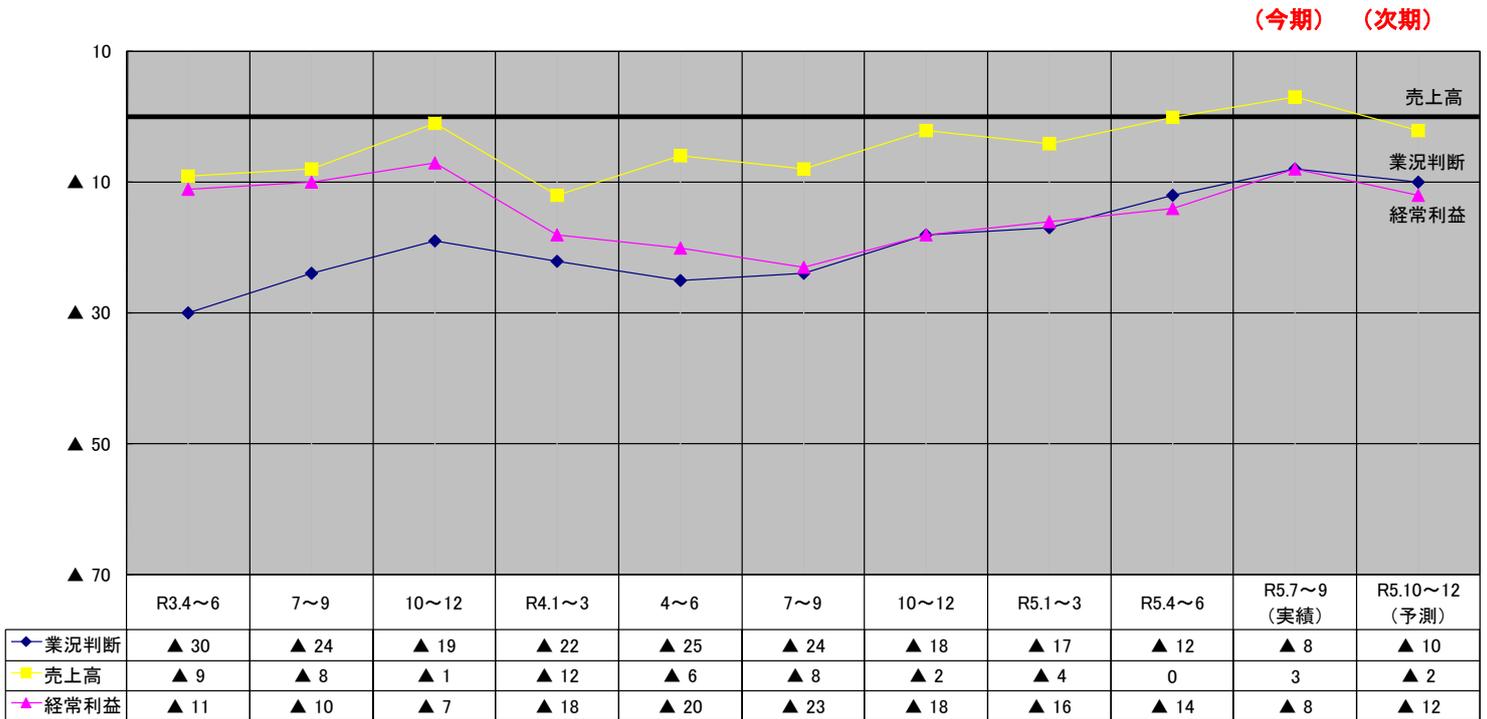
# 主要3項目(業況判断・売上高・経常利益)DIの動向

## <今期実績> (7-9 月期)

- ・2 期連続で主要3項目すべて改善
- ・売上高は平成 30 年 7-9 月期以来のプラス水準

## <次期予測> (10-12 月期)

- ・主要 3 項目すべて悪化を予測



	6 月調査時の 7~9 月期予測	7~9 月期実績
業況判断	▲ 12	▲ 8
売上高	▲ 1	3
経常利益	▲ 13	▲ 8

# — 業 種 別 —

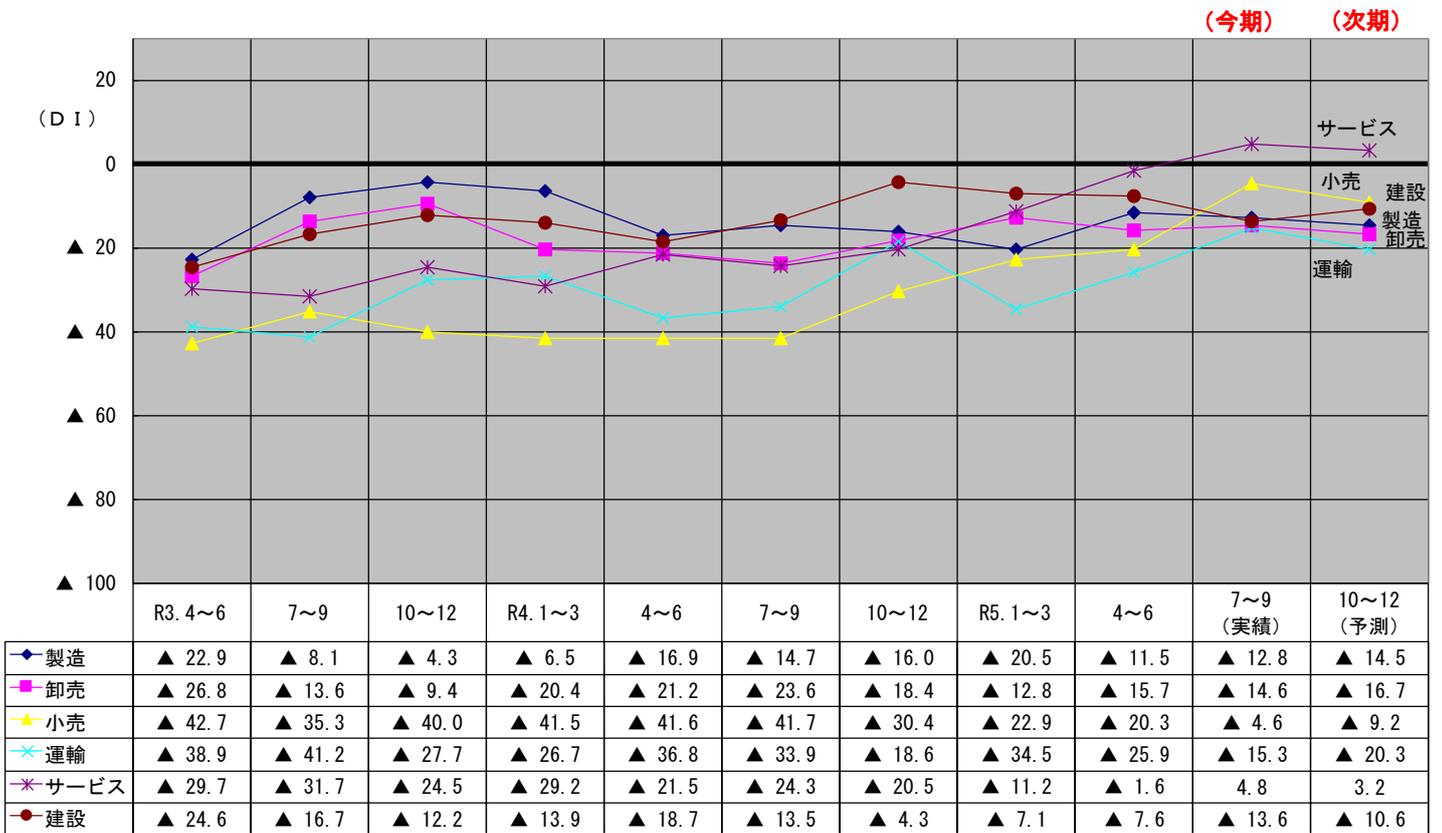
## 業況判断DI

### <今期実績> (7-9 月期)

- ・卸売業、小売業、運輸業、サービス業は改善
- ・小売業は 15.7 ポイントと大きく改善
- ・サービス業は平成 18 年 1-3 月期以来のプラス水準

### <次期予測> (10-12 月期)

- ・建設業のみ改善を予測



	6 月調査時の 7~9 月期予測	7~9 月期実績
製造	▲ 18.6	▲ 12.8
卸売	▲ 15.7	▲ 14.6
小売	▲ 14.5	▲ 4.6
運輸	▲ 22.4	▲ 15.3
サービス	3.1	4.8
建設	▲ 13.6	▲ 13.6

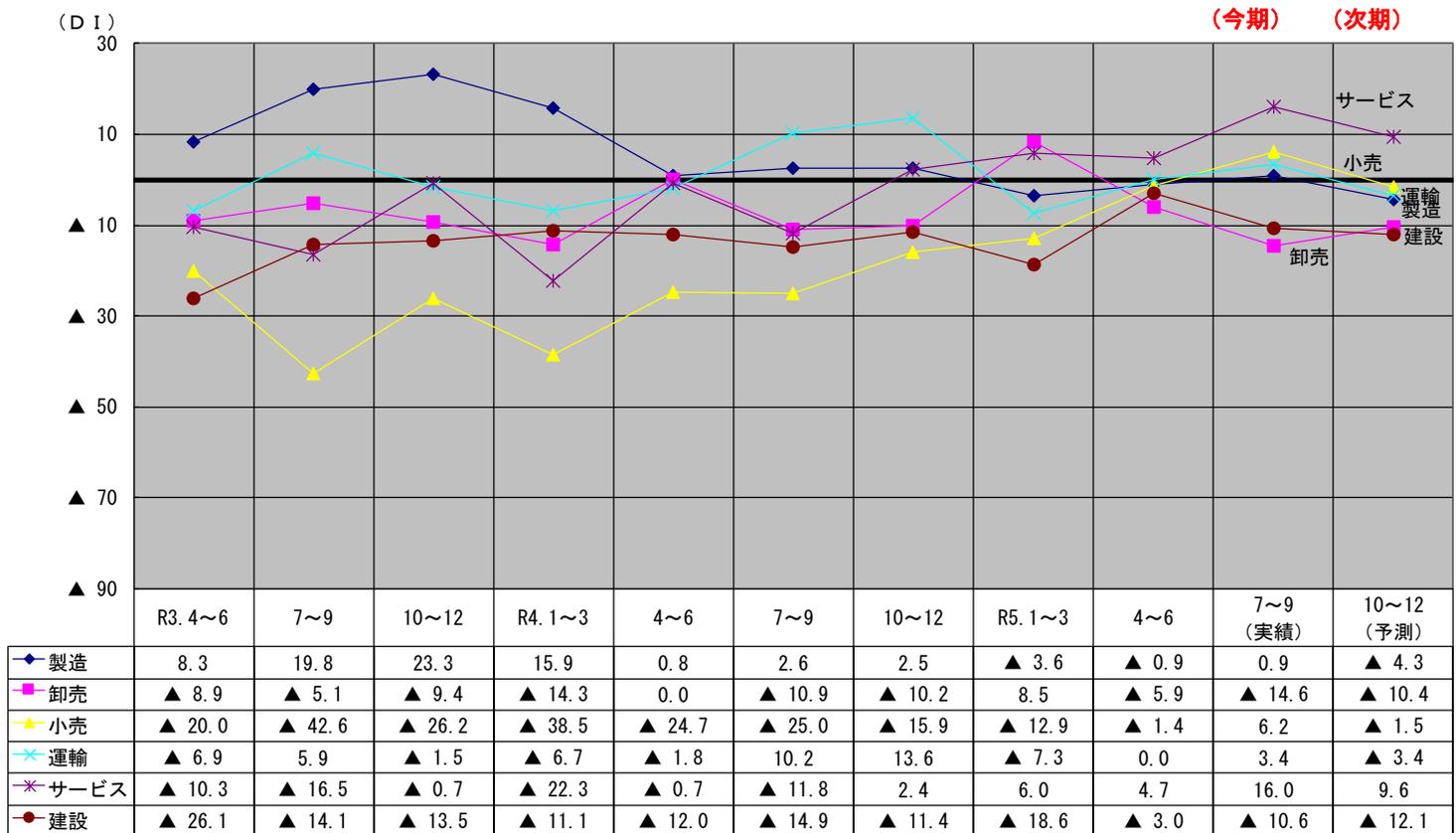
# 売上高DI

## <今期実績> (7-9 月期)

- ・製造業、小売業、運輸業、サービス業が改善
- ・サービス業は 11.3 ポイント改善

## <次期予測> (10-12 月期)

- ・卸売業のみ改善を予測



	6月調査時の 7~9 月期予測	7~9 月期実績
製造	▲2.7	0.9
卸売	▲13.7	▲14.6
小売	▲10.1	6.2
運輸	▲1.7	3.4
サービス	11.8	16.0
建設	▲4.5	▲10.6

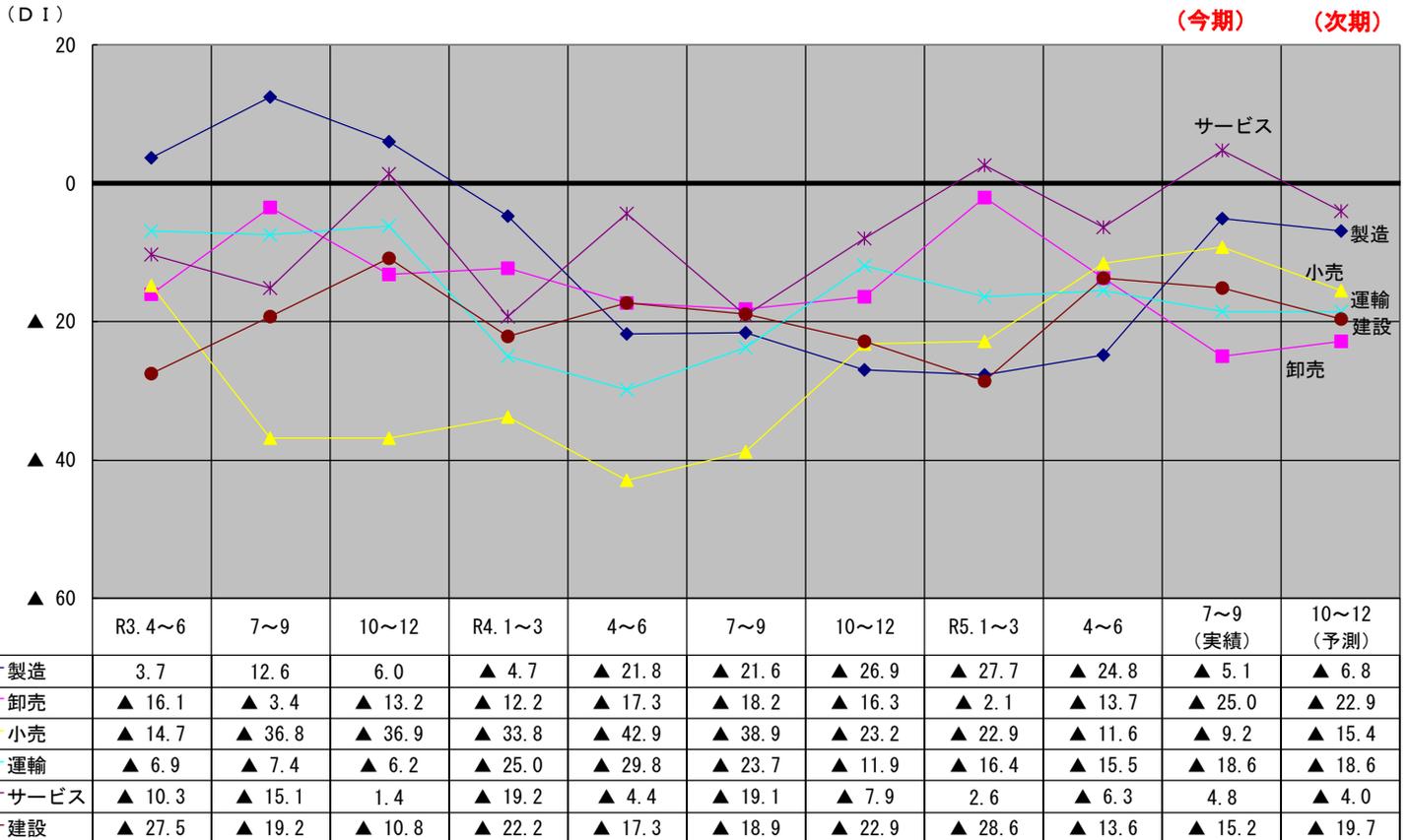
# 経常利益DI

## <今期実績> (7-9 月期)

- ・製造業と小売業、サービス業が改善
- ・製造業とサービス業は 10 ポイント以上改善するも、卸売業は 11.3 ポイント悪化

## <次期予測> (10-12 月期)

- ・卸売業のみ改善を予測



	6月調査時の 7~9月期予測	7~9月期実績
製造	▲21.2	▲5.1
卸売	▲21.6	▲25.0
小売	▲5.8	▲9.2
運輸	▲22.4	▲18.6
サービス	0.0	4.8
建設	▲18.2	▲15.2

# — 規 模 別 —

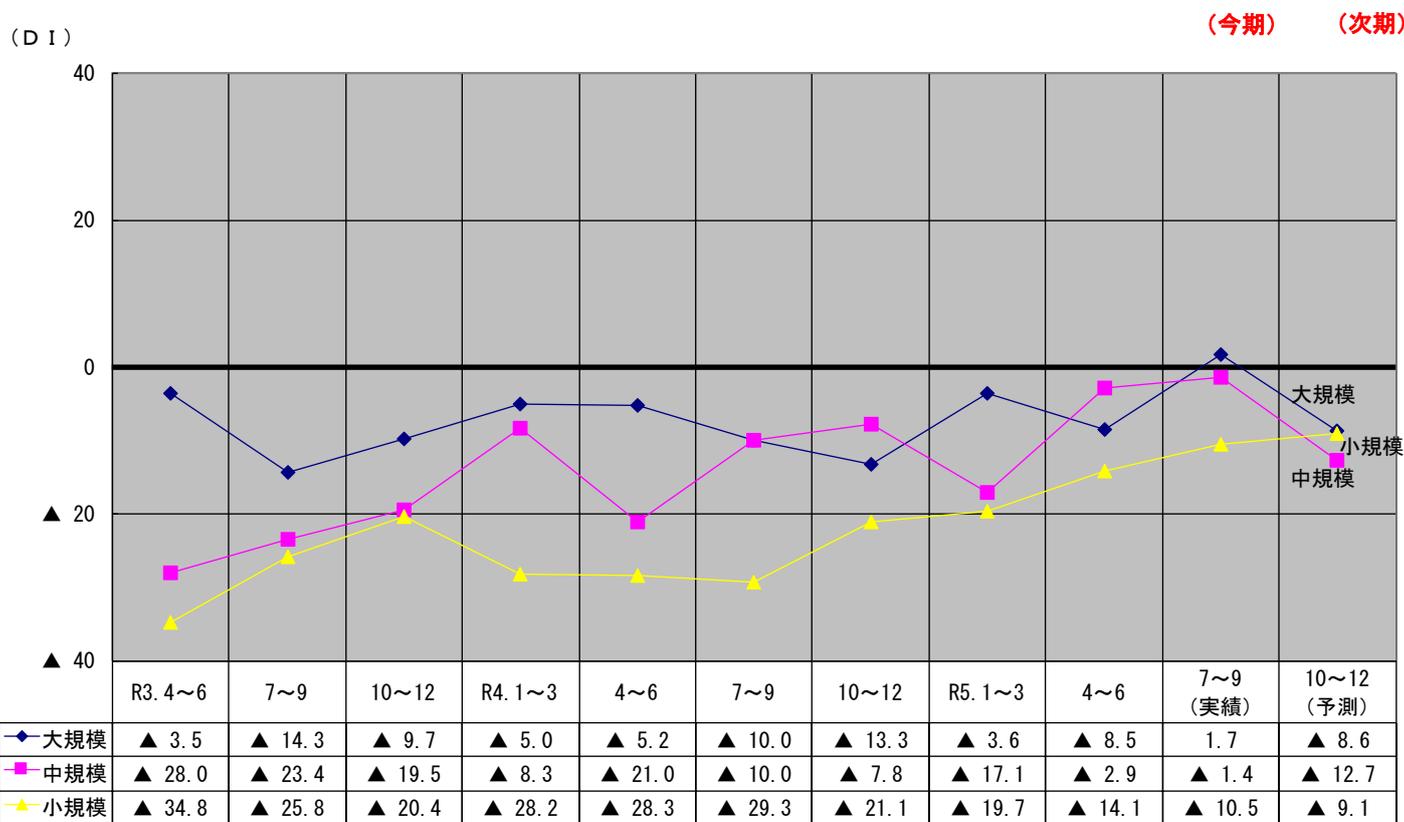
## 業況判断DI

### <今期実績> (7-9 月期)

- ・すべての規模で改善
- ・大規模企業は平成 30 年 10-12 月期以来のプラス水準

### <次期予測> (10-12 月期)

- ・小規模企業のみ改善を予測、大規模企業と中規模企業は 10 ポイント以上悪化を予測



	6 月調査時の 7~9 月期予測	7~9 月期実績
大規模	▲8.5	1.7
中規模	▲2.9	▲1.4
小規模	▲14.1	▲10.5

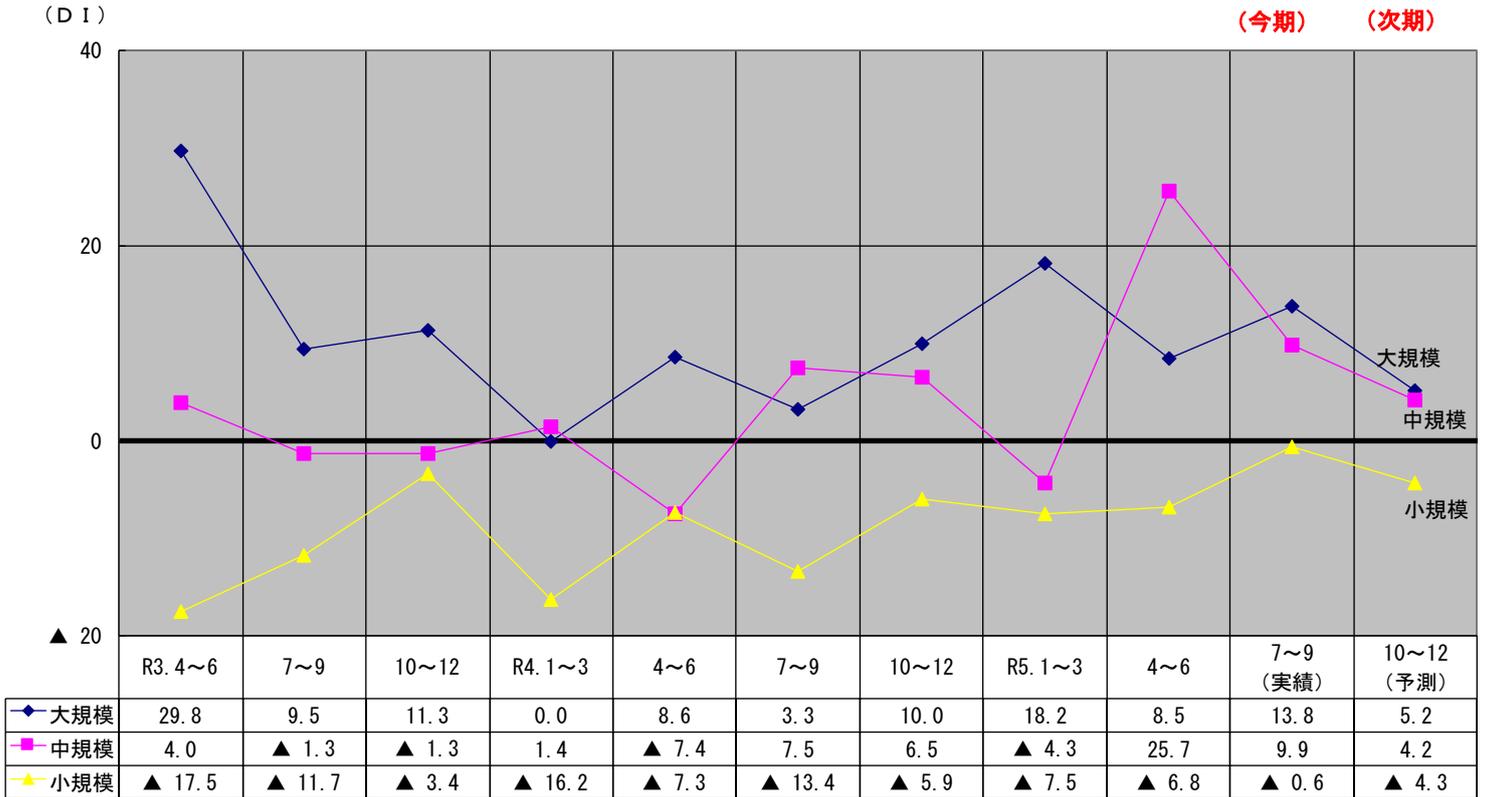
# 売上高DI

## <今期実績> (7-9 月期)

- ・大規模企業と小規模企業は改善
- ・中規模企業は 15.8 ポイント悪化

## <次期予測> (10-12 月期)

- ・すべての規模で悪化を予測



	6月調査時の 7~9 月期予測	7~9 月期実績
大規模	18.6	13.8
中規模	10.0	9.9
小規模	▲6.8	▲0.6

## 経常利益DI

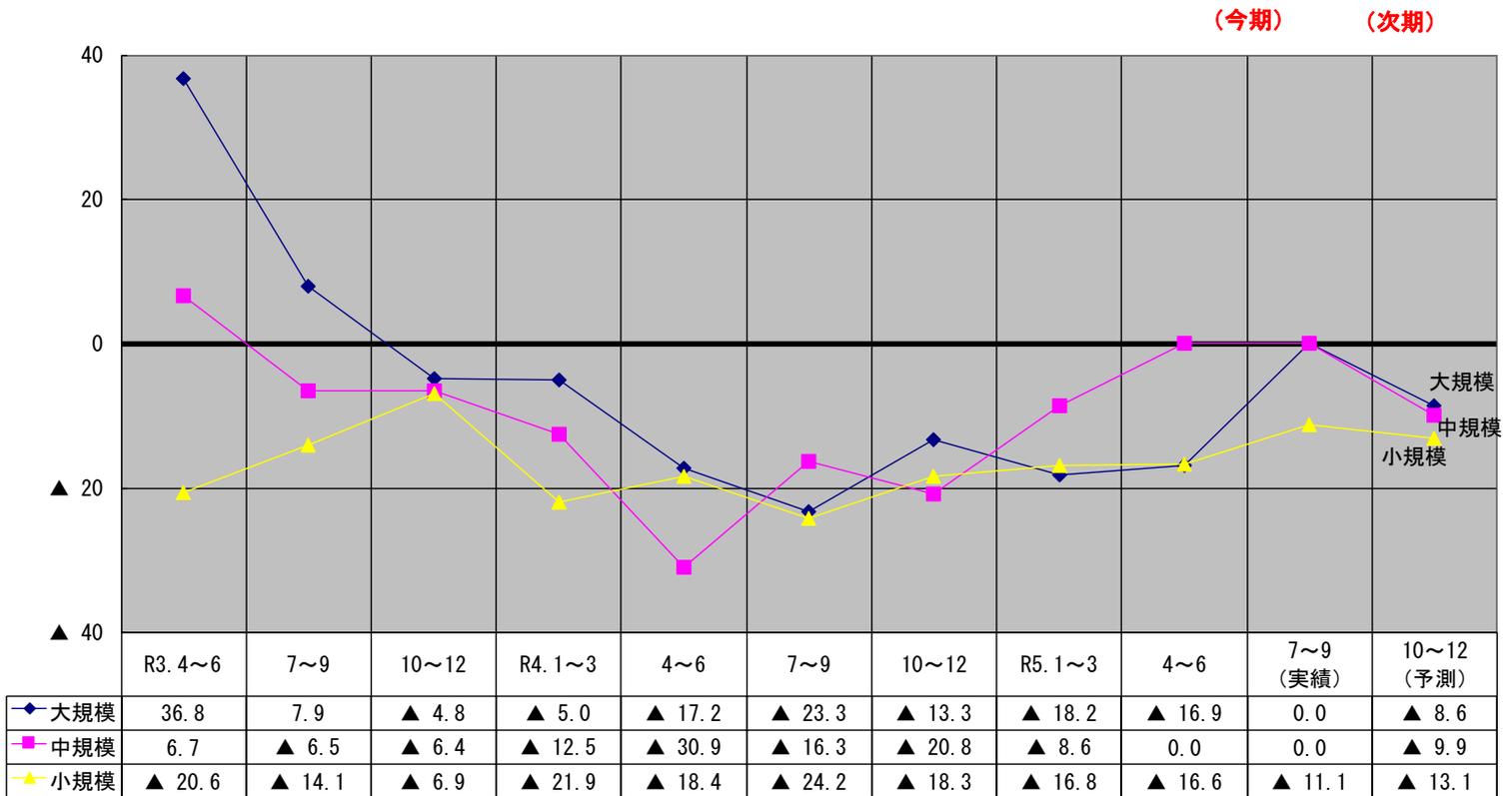
### <今期実績> (7-9 月期)

- ・大規模企業と小規模企業は改善、中規模企業は横ばい
- ・大規模企業は 16.9 ポイント改善

### <次期予測> (10-12 月期)

- ・すべての規模で悪化を予測

(DI)



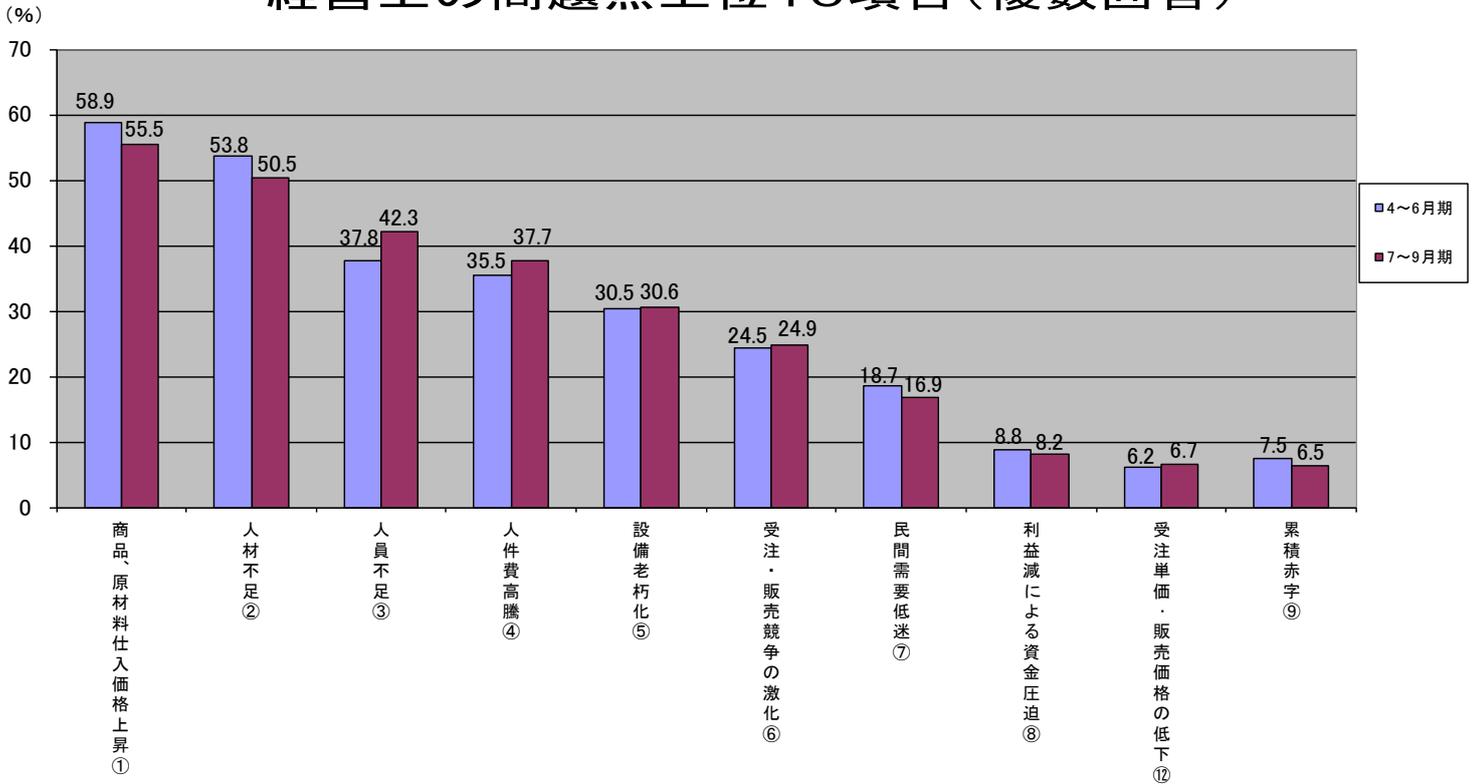
	6月調査時の 7~9 月期予測	7~9 月期実績
大規模	1.7	0.0
中規模	▲ 12.9	0.0
小規模	▲ 15.8	▲ 11.1

## その他項目 DI の動向

	R4年				R5年			
	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9 (実績)	10~12 (予測)
①販売価格・ 受注単価 (「増加」-「減少」)	6.7	13.5	15.9	22.7	26.3	27.6	25.7	25.2
②資金繰り (「容易」-「困難」)	5.2	7.8	5.6	5.6	8.4	8.6	5.5	5.0
③設備投資 (「増加」-「減少」)	▲13.1	▲0.6	▲2.0	▲2.1	▲0.2	0.2	3.0	1.7
④雇用 (「過剰」-「不足」)	▲37.8	▲36.3	▲39.4	▲41.2	▲41.9	▲43.7	▲43.4	▲43.8

- ① 「販売価格・受注単価」……前期から1.9ポイント減少。次期は横ばいを予測
- ② 「資金繰り」……前期から3.1ポイント悪化、次期は横ばいを予測
- ③ 「設備投資」……前期から2.8ポイント上昇、次期も横ばい1.3ポイント減少を予測
- ④ 「雇用」……前期からほぼ横ばい、次期も横ばいを予測

## 経営上の問題点上位10項目(複数回答)



※項目の後の数字は前回調査結果の順位

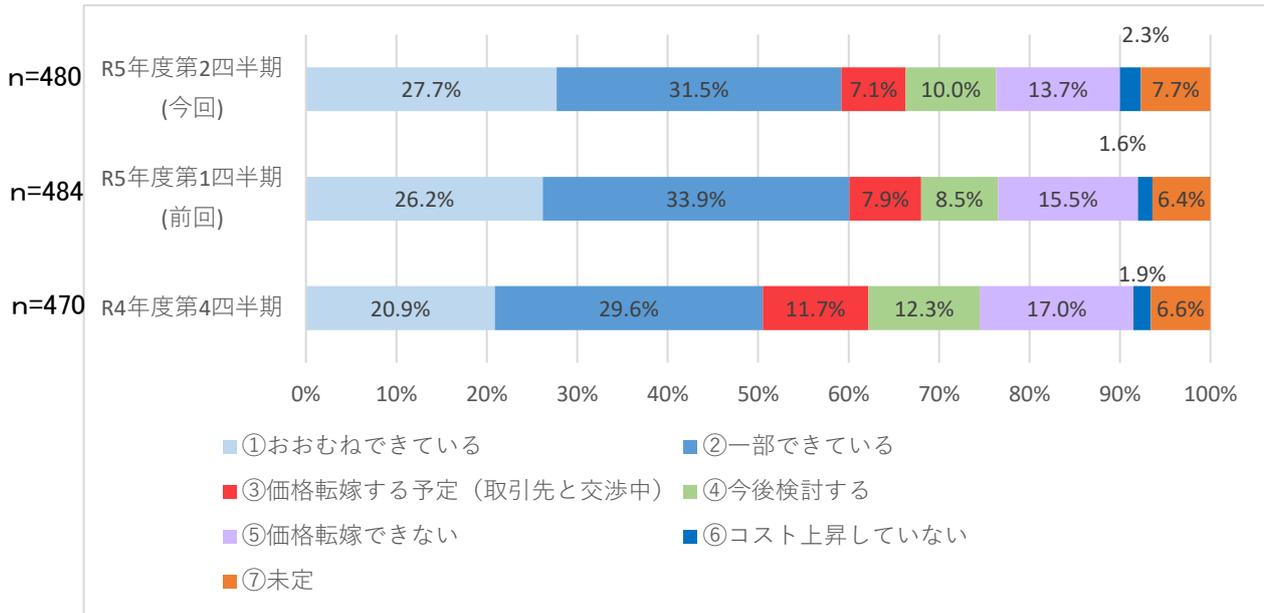
## 企業の声

- コスト上昇に伴う価格転嫁については、必要な利益確保や社員のモチベーション維持のためにも取引先と積極的に交渉している  
【製造業(窯業・土石)・中規模】
- 原材料高騰および人材不足は依然として課題となっている  
【製造業(機械金属)・小規模】
- 原材料価格の上昇分は価格転嫁できているが、人件費などの固定費の転嫁は困難  
【卸売業(金属製品・機械機具)・小規模】
- 仕入価格上昇分は販売価格に転嫁できているが、光熱費などの間接経費は十分に転嫁できていない  
【小売業(医薬品・化粧品)・大規模】
- 2024年問題で人手不足に拍車がかかり利益が減少することを危惧している  
【運輸業(倉庫業)・小規模】
- 10月からインボイス制度が開始されたが、インボイス未登録店舗の利用については経過措置期間中に対応を検討する  
【サービス業(情報サービス)・中規模】
- 需要はコロナ禍前に戻ってきたが、従業員不足で人員の配置が十分にできないため、サービス低下、従業員の負担増加を懸念している  
【サービス業(飲食業)・小規模】
- 受注増加は継続しているが、資材やエネルギー関連の価格上昇により利益増とはならない。  
【建設業(総合建設)・小規模】

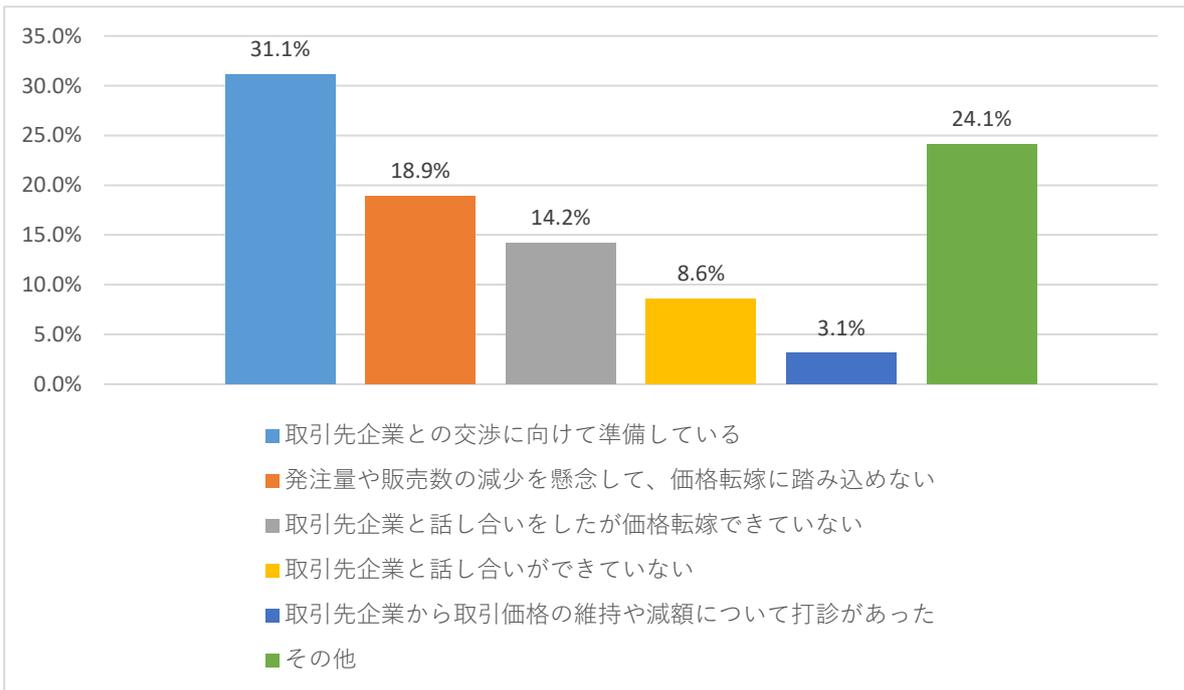
## 付帯調査

### 価格転嫁の状況について

#### (1) 原油価格や原材料価格の高騰などによるコスト増加分を価格転嫁できていますか。



#### (2) 一部または全く価格転嫁できていない理由について（※主な理由をひとつ）



#### 【その他の意見】

- 値上げには一定の理解は得られるが、競合他社との競争で容易にはあげられず顧客によって慎重に対応している
  - コスト上昇のスピードが速いため、対応が追いついていない
  - 請負契約後に原材料費、人件費等が上昇したものは転嫁できない
  - 法定価格が決められているため、自社の一存では値上げできない
  - 消費者も価格に対してシビアになっているためより安いところを探す傾向にある
  - 競合他社との価格競争が激しく価格転嫁できない
- など